

大学院オラトリオアンサンブル演奏会

2021年3月19日(金) 14:30 開場/15:00 開演

シルバーマウンテン1階

指揮：櫻田 亮(客員教授)

【プログラム】

R.L.ボッケリーニ／スターバト・マーテル Op.61

Ridolfo Luigi Boccherini(1743-1805)／Stabat Mater op.61

【演奏】

洗足学園音楽大学大学院アンサンブル研究履修生

洗足学園音楽大学大学院室内合奏団

【ごあいさつ】

本日は、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科「大学院オラトリオアンサンブル演奏会」へお越しくださいます。誠にありがとうございます。

この演奏会は、院生が一年をかけてオラトリオのソロ、アンサンブルを研究し、その成果を発表する、学生にとって大変貴重な演奏会です。

今回は更に弦楽器コースのご協力を頂いて、オリジナルの楽譜に沿った演奏を行うことができますことを感謝しております。

この貴重な経験を通して学生がオラトリオの素晴らしさ、そして楽しみを経験してくれることを願うとともに、今後の音楽人生に新たな道を見出していくことが出来ればこれに勝る幸せはありません。

皆様方にも学生の情熱溢れる演奏をお聴き頂ければと思います。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

洗足学園音楽大学 大学院教授 柳澤 涼子

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【Program】

R.L.ボッケリーニ作曲／スターバト・マーテル Op.61

Ridolfo Luigi Boccherini(1743-1805)／Stabat Mater Op.61

1. Stabat Mater Sop.1 池田 実来^(院2) Sop.2 板倉 春菜^(院2) Ten.櫻井 亮太[♪]
2. Cujus animam Sop.1 渡辺 華子^(院1) Sop.2 原 芽衣^(院2)
3. Quæ moerebat 原 芽衣^(院2)
4. Quis est homo Sop.原 芽衣^(院2) Ten.尤 攀^(院1)
5. Pro peccatis 尤 攀^(院1)
6. Eja mater Sop.1 後藤 ゆずか^(院1) Sop.2 脇屋敷 美里^(院1)
7. Tui nati vulnerate Sop.1 原 芽衣^(院2) Sop.2 脇屋敷 美里^(院1) Ten.櫻井 亮太[♪]
8. Virgo virginum 長島 彩^(院1)
9. Fac ut portem 池田 実来^(院2)
- 10.Fac me plagis Sop.1 村田 涼^(院1) Sop.2 張 一嬌^(院1) Ten.櫻井 亮太[♪]
- 11.Quando corpus Sop.1 渡辺 華子^(院1) Sop.2 壽美 玲子^(院2) Ten.尤 攀^(院1)

洗足学園音楽大学大学院室内合奏団

Concertmistress	林 桃子 ^(院2)
Violin	北川 乃梨子 ^(院2)
Viola	有福 佑依 ^(院2)
Cello	橋本 総司 [♪]
Contrabass	本橋 和樹 [♪]
Organ	岡崎 渚紗 [♪]

練習ピアノ	岡崎 渚紗 [♪]	[♪] …演奏補助要員
オーケストラ指導教員	今野 京 水野 佐知香	

【Profile】

指揮 櫻田 亮(客員教授) Makoto Sakurada

東京藝術大学卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。イタリア国立ボローニャ音楽院に留学。イタリア各地でモンテヴェルディ「ウリッセの祖国への帰還」に出演した他、'07年のモンテヴェルディ「オルフェオ」初演400年では、世界的なヴィオラ・ダ・ガンバ奏者である J.サヴァールなどのグループとエジンバラ音楽祭などで共演。国内でも東京二期会「ラ・チェネレントラ」ドン・ラミーロ、新国立劇場「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ等のオペラ出演の他、W.サヴァリッシュ指揮によるN響をはじめ読日響、新日本フィルなど数多くのオーケストラと共演。中でもバロックから古典派の作品をレパートリーに国際的にも高い評価を得ており、鈴木雅明氏率いるバッハ・コレギウム・ジャパンとはCD録音やコンサートでの共演の他、ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリア・イスラエル等の海外ツアーにも参加。また、イタリア・バロック音楽の普及にも務めている。第27回イタリア声楽コンクール、シエナ部門大賞受賞。ブルージュ国際古楽コンクール第2位(声楽最高位)。東京藝術大学准教授。二期会会員

【作曲家／曲目解説】

ルイジ・ボッケリーニ(1743-1805)は、イタリアの作曲家であり、チェロ奏者としても名高く、弦楽作品を200曲以上作曲している。イタリアのルッカに、5人兄弟の3番目として生まれ、チェロ・コントラバス奏者であった父からチェロの奏法を学んだ。20歳前半にはウィーンの宮廷に勤め、後にスペイン宮廷の皇子付き奏者・作曲家としても活躍をしている。

ハイドンと共に古典派の室内楽様式の確立に貢献し、三重奏から八重奏までのジャンルを開拓した。その中でも弦楽五重奏曲 ホ長調 G275 の第三楽章《ボッケリーニのメヌエット》は現在に至るまで有名である。その作品は優美で、時に憂いを含むものであり、ハイドン夫人との異名を持つ。

ターバト・マーテルもしくは聖母哀傷（ラテン語: Stabat Mater）は、セクエンツァ(続唱)「スターバト・マーテル」に付曲した楽曲である。スターバト・マーテルに曲を付けた作曲家はペルゴレージ、ロッシーニを含めて600人以上と言われている。十字架にかけられたイエスの足元で、聖母マリアがわが子の死を嘆く、悲痛な詩である。

【対訳】

- | | |
|---|--|
| 1： Stabat Mater dolorosa
Juxta crucem lacrimosa,
Dum Pendebat Filius. | 悲しみの聖母は立っていた
御子が架けられている
十字架のもとに |
| 2： Cujus animam gementem,
contristatam et dolentem
pertransivit gladius. | 嘆き、悲しみ
そして苦しむその魂を
剣が貫いた |
| 3： Quae maerebat et dolebat
pia mater dum videbat
nati poenas incliti.
et tremebat dum videbat | 御子が罰を受けるのを
見ていた慈愛深き御母の
悲しみと苦しみはいかばかりか |
| 4： Quae maerebat et dolebat
pia mater dum videbat
nati poenas incliti | 愛に満ちた聖母は
わが子が罰を受けるのを見て、
悲しみ、苦しまれた |
| 5： Pro peccatis suae gentis
Vidit Jesum in tormentis,
Et flagellis subditum.

Vidit suum dulcem natum
morientem desolatum,
Dum emisit spiritum. | 人々の罪のために
イエスが責められ
鞭打たれるのを見られた

愛しい御子が
苦悶の中に
息絶えるのを見られた |
| 6： Eja Mater, fons amoris,
me sentire vim doloris, | さあ 御母よ愛の泉よ
悲しみの力をわたしに感じさせ |

fac, ut tecum liceam,

あなたとともに嘆かせてください

fac ut ardeat cor meum
in amando Christum Deum,
ut sibi complaceam.

この心を燃えたたせてください
神なるキリストを愛すことで
御心になうように

Sancta Mater, istud agas,
crucifixi fige plagas
cordi meo valide,

聖なる御母よ こうしてください
十字架に釘づけにされた御子の傷を
この心に深くしるしてください

7 : Tui nati vulnerati,
tam dignati pro me pati,
poenas mecum divide.

あなたの子が傷つけられ
ありがたくもわたしのために苦しんでくださった
その罪(苦しみ)を私に分けてください

Fac me vere tecum flere,
crucifixo condolere,
donec ego vixero.

あなたと共にまことに涙を流し
十字架の苦しみを感じさせてください
私の生きている限り

Juxta crucem tecum stare,
te libenter sociare
in planctu desidero.

十字架の傍らにあなたと共に立ち
ともに悲しみ悼むことを
真に願います

8 : Virgo virginum praeclara,
mihi jam non sis amara,
fac me tecum plangere.

乙女の中のいと清き乙女よ、
私を退けることなく
ともに嘆かせてください

9 : Fac ut portem christi mortem
passionis fac ut consortem
Et plagas recolare.

私にキリストの死を負わせ
苦難とともに受けさせ
その傷を再び負わせて下さい

10 : Fac me plagis vulnerari,
cruce hac inebriari,
ob amorem Filii.

私にも傷を負わせ
十字架と御子への愛に
私を酔わせてください

Inflammatum et accensum
per te, Virgo, sum defensum
In die iudicii.

審判の日の
火焰と炎熱の中より
乙女よ、御身によりて守ってください

Fac me cruce custodiri,
morte Christi premuniri,
confoveri gratia.

十字架によりて私を守り
リストの死によりて前を固め
恩寵によりて慈しんでください

11 : Quando corpus
Quando corpus morietur
fac ut anime donetur
paradisi gloria Amen.

肉体は死んで朽ちようとも
魂には楽園の栄光を授けてください
アーメン